小川 貴夫
自由クラブ

動画へGO

部活動に対する教育長の考えは

部活動の現状と今後の方向性の理解、支援・協力してもらう仕組み作りが重要

市内の高等学校との協力体制について

問 市内の高等学校への進学傾向は。

答 ここ3年間では、年々市外へ進学する生徒の割合が増加傾向にある。

問 市内3高校の定員割れを防ぐため、市として3校のＰＴＡ会長や同窓会長、校長、市の教育関係者を含め「高校魅力化プロジェクト協議会（仮称）」を設置してはどうか。

答 市内3高校とは、これまでと同様に今後も情報交換する機会を持つため、その中で設置の可能性について研究していきたい。

問 市外から入学する高校生への奨学金制度を設けては。

答 今のところ考えていないが、高校の状況や県の意向を踏まえ、助成制度に限らず、市でできる可能な支援は検討する。

小中学校の部活動について

問 部活動を参加希望制にすることで、メンバーがそろわないことがあると思うが、対応策は。

答 可能な限り児童生徒の希望により部活動選択ができるよう、他校との合同チーム編成の可否について、今後検討していく。また、男女混合チームや学校単位ではなくクラブチームでの参加など、各種大会への参加条件の見直しを検討するよう主催者側に働きかけていく。

問 希望する教員は休日の活動の人材として協力してもらえるのか。

答 休日の活動については、教員でなく地域の人材が担うものであるが、教員としての立場ではなく、地域の一員として協力することは可能である。

問 部活動に対する教育長の思いは。

答 教育的意義の大きさは認識しつつも、これまで内在してきた問題を解決するためには、部活動の在り方を変えていかなくてはならない。そして、新しい仕組みは、持続可能なものでなければならない。そのためには、多くの方に部活動の現状と今後の方向性をよく理解してもらうことと、支援・協力してもらう仕組み作りが重要であると考える。

問 ふるさと教育における取り組みは。

答 学校教育では、地域の「人・もの・こと」と関わる学習を展開、社会教育では、文化体験教室や市民カレッジ、本市出身のスポーツ選手による教室等を開催。図書館では地域資料の収集・閲覧・貸し出しや司書が学習を支援するレファレンス業務、博物館では地域の伝統・文化・人物等をテーマとした展覧会、文化財ガイドなどの啓発冊子の発行、学芸員による出前授業などを行っている。

問 本市が目指すふるさと教育の今後の展望は。

答 ふるさと教育は人づくりの活動であると考え、引き続き、郷土を愛する心を育み、自己を確立し、生き抜く力をつける「ふるさと教育」を推進していく。